

### 基礎研修Ⅲ 「実践事例演習Ⅱ 報告会」 事前課題

基礎研修Ⅱ 集合研修4で実施した、ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ「実践事例演習」を改めて振り返り、「ソーシャルワークの展開過程」をふまえた上で、自ら現在実践している事例のうち一つを、書式に沿ってA4用紙1～2枚程度のまとめてください。

報告書作成にあたっては、アセスメントから支援目標の設定、計画の実行、モニタリングなどについて個人の要素や組織内での連携に留意してまとめてください。作成した報告書は、実践事例演習Ⅱ報告会で、全員に発表してください。

現在、実務についていない方は、過去の実践を改めて振り返り、報告書を作成してください。

今までに一度も実践経験のない方は、以下の事例「ある家族への支援」を読んでください。そして、地域包括支援センターH社会福祉士と、Kスクールソーシャルワーカーが協働して支援を開始することを想定してください。

この場合、2人のソーシャルワーカーが支援展開するにあたり、①ソーシャルワーカーの果たすべき機能にはどんなものがあるか。②活用される実践理論やモデル及び活用されと思われる実践アプローチは何か良いか、何故そのアプローチを選択したかの根拠を説明する報告書を、A4用紙1～2枚(1200字以内)にまとめてください。

○レジュメは7部準備してください。(グループメンバー用と講師用です。都道府県毎、参加人数によって異なります)

#### 基礎Ⅲの事前課題の事例 「ある家族への支援」

Aさん 80歳 女性 アルツハイマー型認知症 夫B(85)と長男C(38)その妻D(35)、小学5年女Eの5人家族。経済的にはAさん夫婦の厚生年金、長男夫婦に共稼ぎで経済的には支障は無いという。庭付き二階建て持家、自家用車3台保持している。

Aさんの認知症は重度(認知症生活自立度ⅢBレベル)で物忘れ、物盗られ妄想でトラブルが多発している状態である。歩行は自立、紙おむつ使用、2年前から要介護Ⅱの状態、入浴とリハビリテーション目的でデイサービスに週2回利用している。

ある日、デイサービス利用時、背中や大腿部に赤青あざがあり、触ると痛いと反応する。「どうしたの?」と尋ねても「分からない」という返事で、隠蔽というよりは記憶がないようである。その後の利用日でも、たびたび痛みを訴えるためデイサービス職員は、F介護支援専門員に相談し、本人と面談後、Fは身体的虐待の疑いで、地域包括支援センターへ通報した。

地域包括支援センターのHソーシャルワーカーは、市の担当者と協議し、通報があった当日夕方、市の担当係長と保健師、そしてH社会福祉士とF介護支援専門員の4人でAさん宅を訪問した。最

初、玄関チャイムを鳴らしても応答がなかったが、Fが裏にまわって声かけするとやっと夫が鍵を開けてくれた。

家の中は異臭がして、廊下や居室に物が散乱し、足の踏み場がなかった。Aさんは奥の居室のベッド上で寝ており、挨拶しても目を開ける程度の反応だった。

Aさんには保健師が身体・生活状況のアセスメントを行った。問いかけに返事はするが栄養状態が不良で、陰部は異臭と皮膚炎症を起こして、仙骨部に褥瘡の徴候もあった。

Bさんとの話では「妻がボケて、同じ事を何度も言うし、尿と便失禁がしょっちょうある。何回注意してもゼンゼンダメがだから、つい手がでてしまった」と話す。「どこか預かってくれるところはないか。息子夫婦に負担はかけられないし。このままでは殺してしまうかも・・・」と、涙ながらに話せられた。

その頃、小学5年のEさんも、不登校が1ヶ月続き、担任から相談のあったKスクールソーシャルワーカー（以下、KSSW）は、その日の放課後、Eさんに会うため訪問し玄関のチャイムを鳴らしたが、誰かいるようだけど中から応答はなかった。そこで母親Dへ電話してみると明日学校で面談したいと要望があった。

Eさんの母親は、KSSWに会うなり、義母の介護を義父に任せきりにしていること、このことで毎日夫とケンカしていること。夫の会社は不景気の影響と人員不足のため、管理職だから残業も多く忙しいようだ。私も看護師で人員不足で夜勤も多く、子どもを放置している状態だった。学校に行っていないことも最近知ったばかりでした。どうしたら良いか、困っているところでしたと、一気に話された。

KSSWは、一度Eさんに会わせてほしいことを伝え、Aの状態や介護の状況も詳しく聞き取った。

その結果、義父は頑固な性格で、元銀行員で人つき合いが苦手、家のことは母任せで、介護にも関心がない人だった。家の中が散らかっているので中に人を入れたくないことだった。

その後のEさんとの面談では、学校に行かないことについては、特に理由はないという。いじめにもあってないときっぱり話された。家の中は異臭がするので、友だちに教えてもらった図書館に毎日行き一人でそこで過ごしている。図書館の先生が優しく、いろいろな本や学校の勉強も教えてくれる。

おじいちゃんはお婆ちゃんをいつも怒鳴っているし、お父さんとお母さんも夜中に口げんかしている。私のことで迷惑をかけたくないので学校に行っている振りをしていた。

以上の状況を踏まえ、KSSWは地域包括支援センターのHソーシャルワーカーへ連絡を入れ、その後この家族への支援が開始された。